



「つゆ」には、どんな良い面と悪い面があるの

必要な水が得られるが、食中毒のおそれもある

6月中ごろから7月中ごろにかけて、日本の北にあるオホーツク海気団(冷たい気団)と、南にある小笠原気団(暖かい気団)がぶつかって、前線をつくります。気団とは、同じ性質をもつ空気のかたまりのことをいい、前線は、暖かい気団と冷たい気団の境目が、地面とふれる所をいいます。このようにしてできた前線を、梅雨前線といいます。

梅雨前線ができると、くもりや雨の日が続くようになります。このころを「つゆ」といっています。

「つゆ」による雨は、農作物を作ったり、飲料水や水力発電の水などとして、なくてはならない大切なものです。

「つゆ」のころは、いろいろなカビが生えやすく、食べ物がくさり、食中毒が起りやすくなります。

「からつゆ」でも、「つゆ」が長すぎても悪い影響がある

「つゆ」のときは、じめじめした日が続くことが多いのですが、「つゆ」のときでも、ほとんど雨が降らない年があります。これを、「からつゆ」といいます。「からつゆ」の年は、田植えなどに影響をあたえたり、水不足で、飲料水が不足したり、水力発電による電力が不足したりします。

また、「つゆ」が明ける時期がおそくなると、日照不足で、農作物が育たなかったりして、大きな影響があります。(監修・村山 貢司)

